

【第2報 (2020年8月20日)】

日本教育社会学会 第72回大会

若手研究者交流会

(オンライン開催)

大会前日の9月4日(金)の午後7時から開催を予定している若手研究者交流会について、第1報(大会プログラムに掲載した内容)につづき、第2報をお届けいたします。

第2報では、申し込みフォームのURLをお知らせするとともに、当日のおおまかな進行表、ならびにラウンドテーブルの詳細(各話題提供者のプロフィールや報告概要)をご案内いたします。

1. 申し込みフォーム

下記のフォームより、お申し込みください。申込期限は、9月1日(火)の午後5時とします。翌日中に、申し込みの際にご記入いただいたメールアドレス宛に、Zoom会場の情報を送付いたします。

<日本教育社会学会 若手研究者交流会 申し込みフォーム>

<https://forms.gle/kxyJg8LptuhawzK18>

2. 当日の参加方法と進行表

ラウンドテーブルIとIIで、それぞれZoomの会場を設けます。各会場にて、話題提供者からの報告と、ブレイクアウトセッションをおこないます。各会場の進行は基本的に同じで、下記のとおりです。

19:00-19:10	教育部挨拶, 趣旨説明
19:10-19:40	話題提供者による報告
19:40-20:10	質疑応答
20:10-20:20	休憩 (ブレイクアウトセッションへの移行)
20:20-21:00	話題提供を受けて、ブレイクアウトセッション 【ここで公式の交流会は終了】
21:00-21:30	会場を閉じずに自由に交流

3. ラウンドテーブルの詳細

(1) ラウンドテーブル I ——大学院生のサバイバル・ストラテジー

大学院生の関心や課題についての話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。テーマは、入会学会、年間計画、修士論文・博士論文、共同研究、学外の研究者との交流、論文投稿、助成金獲得等、時間の限り多岐にわたる予定です。

<話題提供者>

前田 麦穂（兵庫教育大学・日本学術振興会特別研究員 PD）

粕谷 圭佑（立教大学大学院）

野村 駿（名古屋大学大学院）

<司会>

中村 瑛仁（大阪大学）

■ ラウンドテーブル I：話題提供者のプロフィール・報告概要・主要研究業績

▼ 前田 麦穂（まえだ むぎほ）

① プロフィール

日本学術振興会特別研究員 PD・兵庫教育大学。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。戦後日本における教員採用制度の形成過程について歴史研究を行っている。

② 報告概要

大学院生の「サバイバル」を左右する要因の一つに、ハラスメント問題がある。本報告では、博士課程在籍時に所属研究室でハラスメント防止研修会を導入した経験や、他研究室・研究会等でのアンチハラスメントポリシー策定の実践などを事例として、研究コミュニティにおけるアンチハラスメントの取り組みを紹介する。その上で、すべての大学院生が安心して研究に専念し、研究者キャリアを築いていくために何ができるのかを、参加者と共に考えたい。

③ 主要研究業績

- ・前田麦穂「戦後初期の教員採用における選考権の運用実態：1950年代の富山県を事例として」『教育学研究』第85巻、第3号、pp. 309-320, 2018年。
- ・前田麦穂「教員採用における「選考」規定の定義と解釈の成立に関する研究：戦後初期の教育公務員特例法と人事院規則八―一二の成立順に着目して― [研究ノート]」『教育制度学研究』第24号、pp. 82-101, 2017年。

▼ 粕谷 圭佑（かすや けいすけ）

① プロフィール

立教大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程在籍。日本学術振興会特別研究員 DC2。修士（教育学）。子どもが学校的組織の一員となる過程（学校的社会化）に関して、特に大人と子どもの相互行為に着目した研究を行っている。

② 報告概要

これまで話題提供者が関わってきた学校調査について、共同調査へどのように参加してきたか、どのような経過を経て投稿論文執筆に取り組んでいるかを報告する。その中で、学校調査の実施にあたりしばしば問題となるフィールドとの関係構築について、これまでの話題提供者の経験を紹介する。また、現在のコロナ禍のなかで研究を進めていく際の大学院生の悩みについて、院生間の「横のつながり」に着目して話題を提供したい。

③ 主要研究業績

- ・粕谷圭佑「児童的振る舞いの観察可能性：『お説教』の協働産出をめぐる相互行為分析」『教育社会学研究』第102集，pp. 239-258，2018年。
- ・粕谷圭佑「『社会化』過程の再特定化：幼稚園年少級におけるルーティン活動の相互行為分析」『教育社会学研究』第105集，pp. 115-135，2019年。

▼ 野村 駿 (のむら はやお)

① プロフィール

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程在籍。日本学術振興会特別研究員 DC2。修士（教育学）。「若者の夢追い」に関心がある。現在は、バンドマンを対象とした質的調査から、彼らがいかなる夢をいかに追い始め、追い続け、諦めていく／実現していくのかを研究している。

② 報告概要

「バンドマンは教育社会学なのか？」。話題提供者のこれまでの研究活動を振り返りながら、学位論文と投稿論文の執筆経験を報告する。特に、一見「教育社会学」的ではない対象やテーマをどのようにして「教育社会学」的に見せるのかという点について、話題提供者自身が悩んできたこと、考えてきたことをお話したい。

③ 主要研究業績

- ・野村駿「なぜ若者は夢を追い続けるのか：バンドマンの『将来の夢』をめぐる解釈実践とその論理」『教育社会学研究』第103集，pp. 25-45，2018年。
- ・野村駿「不完全な職業達成過程と労働問題：バンドマンの音楽活動にみるネットワーク形成のパラドクス」『労働社会学研究』第20号，pp. 1-23，2019年。

(2) ラウンドテーブルⅡ——若手大学教員のキャリア・マネジメント

大学専任教員の初期キャリア段階（任期付・ポスドク含む）を想定した話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。テーマは、講義や演習の題材、ゼミ・卒論指導、依頼原稿、学内業務、助成金獲得等、時間の限り多岐にわたる予定です。

<話題提供者>

中島 葉子（岐阜聖徳学園大学）

須藤 康介（明星大学）

<司会>

久保田 真功（関西学院大学）

■ ラウンドテーブルⅡ：話題提供者のプロフィール・報告概要・主要研究業績

▼ 中島 葉子（なかしま ようこ）

① プロフィール

岐阜聖徳学園大学教育学部准教授。名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。外国ルーツの若者の進路形成のあり様について質的に研究している。1児（小4男）の母。

② 報告概要

ここ数年の平均持ちコマ数が年間17コマ、所属委員会等5つ（今年度）、通勤時間片道1時間以上、週4日は18時半までに帰宅し家事育児、という時間的制約のなかでいかに研究・授業業務・家庭を両立させていくか、常に頭を悩ませている。研究と授業業務をできるだけうまくつないで一石二鳥を狙うために行ってきた工夫について紹介しながら、参加者の皆さんと両立の新しいアイデアをぜひ見つけたいと考えている。

③ 主要研究業績

- ・中島葉子・大塚容子「教員養成学部における日本語指導法の授業で育成される資質能力：ライト文の分析から」『岐阜聖徳学園大学紀要<教育学部編>』第57集，pp. 37-53，2018年。
- ・山本晃輔・中島葉子・児島明「移動とともにある再チャレンジ：アマゾン流域部の日系ブラジル人の事例から」『未来共生学』第6号，pp. 229-261，2019年。

▼ 須藤 康介（すどう こうすけ）

① プロフィール

明星大学教育学部准教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。小中高生の学習・生活・生徒文化などに関する計量学校社会学の研究を行っている。

② 報告概要

話題提供者が明星大学教育学部に就職するまでの経緯を簡単に紹介した後に、これまでに担当した授業科目、そこで困ったことや工夫したこと、授業教材の一例を紹介する。話題提供者が担

当した科目は、講義中心の科目、グループディスカッション中心の科目、SPSSによる実習を含む科目、1年生向けゼミ、卒論ゼミ、通信レポート添削科目と多岐に渡る。それらを反省も含めて紹介した上で、参加者の皆さんからご意見などをいただければと考えている。

③ 主要研究業績

- ・須藤康介『学校の教育効果と階層：中学生の理数系学力の計量分析』東洋館出版社，2013年。
- ・須藤康介『教育問題の「常識」を問い直す：いじめ・不登校から家族・学歴まで 第2版』明星大学出版部，2019年。
- ・須藤康介『学習と生徒文化の社会学：質問紙調査から見る教室の世界』みらい，2020年。